

今日の説教のポイント<コリントの信徒への手紙二 8章9-14節>

①私たちはキリストの恵みを知っている。

私たちが知っているキリストの恵み—それは、私たちが豊かにするために主が貧しくなってくださったということだ、とパウロは言います。これが何を意味するかは明白です。神の御子が人となってこの世に来てくださり、十字架の死に至るまでの道を低く低く歩み下ってくださったことによって、私たちが罪（神からの離反・断絶、それゆえの真の人間性の喪失・虚無）を償われ、人間としての内実を満たされ回復された（救われた）ことを言っているのです。私たちはいまや、神と真っ直ぐつながって生きる豊かさを知る者とされているのです。

②そこから自ずと出てくる愛の行為。

主が十字架に命を捨てるまで貧しくなって私たちが真の人間として生きる豊かな者にしてくださったことを味わい知るところから、私たちが自ずと進んで与え、他を豊かにすることを喜ぶ者となります。「持っているものに応じて」—私たちの持っているものは、自分のためだけでなく、他のために役立つものとして託されているものなのです。他のために役立つ何も持っていない人は一人もいない、誰の存在も意味がありどんな人も他に与えることのできる何かを持っている、そのように人は神によって造られている—このことを心に刻んでおきましょう。

③他の欠乏を補う者は、いつかまた他に補われ助けられる。

これは人間世界の不思議な真理を言い表しています。補い補われる存在—これが人間というものの基本的な在り方なのです。自分独りの力だけで私たちは生きているではありません。そしてたとえ目に見える形で人から与えられることは少ない場合でも、「進んで行く気持があれば…神に受け入れられる」ということも覚えておきましょう。また同時に、もう一つ、私たちは他から補われる存在だということを率直に受け容れることも大切です。与え補うことも嬉しい信仰であり、喜んで素直に与えられ補われて感謝するのもまた信仰です。補い補われる—それは互に他者に対して開かれるということです。そのような信仰を生きて、私たちは神に対しても人に対しても大きく豊かになるのです。

教師 桑原 昭